『十日盆』精霊迎えの御案内

毎年お盆には御先祖のお精霊さん（おしょらいさん）が各家庭に帰ってこられます。水塔婆を書いて、迎え鐘をつき、高野槇の葉に乗って冥土から懐かしき我が家へ暫し里帰りされます。

こうした昔から宗派を越えたお盆行事の風習は、先祖を思う人々の篤き信仰の中に長い年月の時空を越えて脈々と受け継がれ今日に至っています。

今もコロナウイルスの影響で多くの行事が延期やや自粛が続いておりますが、三蜜を避け、出来るだけの配慮を行って取り組んで参りたいと思いますので、「十日盆」精霊迎えにお参りくださいますようお願い申し上げます。

合　掌

Q：十日盆の水向供養や水塔婆はどんな意味があるの？

A：仏教では死後の世界として輪廻転生する六つの世界があり、地獄、餓鬼、畜生の三悪道に落ちると限りない渇きの苦しみが待っており、それを救うのが水向供養です。それを転じて先祖に慈悲を注ぎ供養することの大切さを学び、今の自分の心も慈悲に輝く存在となることを願います。

Q：なぜ、高野槇を持って帰って仏壇に供えるの？

A：平安時代のはじめ頃、嵯峨天皇に使えていた官人である小野篁が、夜になると寺の本堂裏にある井戸をくぐってあの世に行き、閻魔大王に仕えていたとされ、あの世への出入り口とし、高野槇はあの世への出入口である井戸の傍らにありました。小野篁はこの高野槇の枝を伝って井戸を降りて行き、また井戸から這い上がるときには、この枝にしがみついて上がってきたことから、あの世からお精霊さんを迎えるにあたり、お精霊さんが井戸から出てこられる際に、お迎えに来る人は高野槇を持って、道案内をした言われています。

Q：なぜ、迎え鐘（精霊迎えの鐘）を撞くの？

A：鐘楼の鐘の音は、遠く十万億土の彼方まで届くとされ、お精霊さんはこの「迎え鐘」の音に呼ばれて、この世に戻ってくると信じられてきました。お参りされた後は、鐘楼であの世まで響くと言われる迎え鐘を撞きましょう。

今年も十日盆限定で御朱印帳への御朱印記入と、後ほど御朱印帳にお張りいただく書き置きの御朱印を用意させていただき、御希望者に授与させていただく予定です。

御希望の方は、お参りの際に御朱印帳を御持参いただくか、書き置きの御朱印をお渡しいたします。

浄土宗 向旭山　**西　念　寺**

京田辺田辺市北里２９　0774(63)2912　(62)1027

FAX　0774(26)9683